

寄附講義「会社研究」令和5年度 第13回目

令和5年7月12日(水) 13時10分

講師 株式会社大分銀行 取締役 平川 浩行 氏

テーマ：「資本主義のグローバル化と日本の盛衰」

本年度第12回目の寄附講座は、昭和61年3月に卒業し、株式会社大分銀行へ入社して、現在は取締役の平川 浩行先輩による、「資本主義のグローバル化と日本の盛衰」という講義となりました。



先ず、下記タイトルに沿って述べられました。

1. 産業革命と資本主義

産業革命は現在までに4回発生している、その中で燃料が石油になり電力が普及した第二次産業革命は一気に資本主義が拡大していった。

2. 資本主義のグローバル化

「トマ・ピケティ」の調査によると過去2000年に亘って労働生産性は資本収益性を上回っているが、第二次産業革命以降労働生産性は飛躍的に向上している、近年労働生産性も資本収益性両方共低下している原因はグローバル資本主義が世界中に行き渡り、行き詰まりつつあることを示唆しているとの由

3. 日本の成長と行き詰まり

日本は1950年代に高度成長期を迎え、1973年以降ファクトリーオートメーションに成功し、自動車・家電産業が発展し、貿易摩擦を引き起こすようになった。

1985年のプラザ合意で円高が進み内需拡大、特に地価・株価高騰によりバブルが発生した。

4. 中国が世界に与えた影響

2002年中国がWTOに加盟と並行して日本に代わって「世界の工場」となった、安価な製品輸出により世界中にデフレを齎した。

同時に中国の輸入増加は一気に資源高を齎した。

5. 日本の衰退過程

1991年よりバブル崩壊が始まり、地価はピーク時から1/10、株価もピーク時の1/5を経験する所謂「失われた30年」と言われ長年デフレから脱却出来ていない。

6. 日本の金融政策

日銀の黒田総裁肝いりの黒田バズーカ「大幅な金融緩和・マイナス金利政策は不発に終わった。その理由としては、

- 1) デフレは貨幣現象であり、金融政策では解消できない
- 2) 国内に余剰資産を抱え、深刻な少子高齢化を抱えた状態の日本では金融政策で経済を刺激することは困難

7. 日本の処方箋

- 1) 総国民生産高から一人当たりの生産高へ政策転換する
- 2) IOT・DX化の推進
- 3) ゼロ金利からの脱却
- 4) 日本の高品質商品のブランディング化により輸出ドライブをかける。

最後に学生に対して、

- 1) 努力を継続すること・時間を味方にする
- 2) DX化やAIを使いこなしていく側になって欲しいとの由



以上